

## 令和元年度 第2学校評議員会 会議録

- 1 日 時 令和2年2月7日（金） 14：00～14：50
- 2 場 所 本校大会議室
- 3 参加者 学校評議員 4名（1名欠席）  
校長、事務長、全日制（副校長・総務課長・教務課長・生徒課長・進路課長）  
定時制（教務課長・生徒課長）、通信制（副校長・教務課長・生徒課長） 計16名
- 4 議 事（進行：全日制副校長）
- （1）開会のことば
- （2）校長挨拶（校長）
- （3）学校概況説明（全日制・定時制・通信制 各担当者）  
・資料のとおり
- （4）質疑応答
- ①A評議員…学校評価（全日制）の「課題は適切に出されているか」という項目について、教員と生徒の間に意識の差があると感じるが、課題の意図が生徒によく伝わっていないのではないか？  
・全日制教務課長…近年家庭学習時間の減少が問題となっており、学力向上を目指して改善に取り組んだこともあり、このようなアンケート結果になってしまった。
- ・全日制副校長…「学習と部活動の両立」の項目にも、教員と生徒の間にギャップがある。この辺が今後の課題だと考えられる。
- ②B評議員…部の統廃合について、今後の見通しを聞かせてほしい。  
・全日制副校長…学級減にともない教員の定数も減るので、部の統廃合は避けて通れない。  
現在の統廃合ルールは、学級減が決まる前のものなので、新たなルール作りが必要だと考えている。
- （5）評議員から
- ①C評議員…生徒数の減少の話を聞き、改めて危機感を感じた。地域のセンタースクールである宮古高校にはなんとか存続してもらいたい。親しい方から海外の教育事情を聞機會があったが、日本の教育は懇切丁寧に生徒に手をかけていると感じた。先生方は忙しくて大変だと思うが、健康に留意されて仕事を頑張ってほしい。
- ②D評議員…市内で新聞関係の仕事をしているが、今年度宮古高校には新聞を教材に活用して頂き非常に感謝している。新聞離れや活字離れが叫ばれているが、今後も生徒が新聞に触れる機会をつくって頂きたい。3年間評議員を務め、先生方の大変さを痛感した。今後も一市民として宮古高校を見守っていきたい。
- ③A評議員…定員割れが続く中で、今後ますます生徒の多様化が進み、一人ひとりの目標にどう寄り添っていくかが課題だと思われる。定時制や通信制で行われている生徒の個性に合わせた指導がとても印象的であった。生徒一人ひとりの個性が輝く指導によって、全日制からもいろいろな生徒が出てきて欲しいと願っている。
- ④B評議員…宮古地区の中学生は自己有用感が低いと言われている。学校評価（全日制）の「魅力ある学校」について生徒の肯定評価が下がっていることとの関連性を感じた。中学生との面接指導を通じて、地域の中学生が宮高生の主体的な姿に魅力を感じていることがわかる。今後も様々な場面で、中学生と一緒に活動する機会をつくってほしい。
- （6）閉会のことば